

第2章 未来の南丹市のすがた

① めざすべきまちの将来像

まちの将来像は、市民・事業者・行政がそれぞれまちづくりを進めていくうえで、共通にイメージできるまちのあるべき姿を示したものです。10年後の南丹市のイメージを共有することで、それぞれの強みを生かした協働のまちづくりを図ることが可能になります。

森・里・街・ひとがきらめく ふるさと 南丹市

② 重点テーマ

南丹市では、2015（平成27）年度に「南丹市地域創生戦略」（計画期間：2015～2019年度）を策定し、定住促進の取り組みを総合的かつ効果的に進めています。

今後も、南丹市を持続的に発展させていくためには、人口の転出抑制と転入促進、出生率の向上、健康寿命の延伸などによる、定住人口の維持・充実が求められています。

そのため、本計画においても、まちの将来像『森・里・街・ひとがきらめく ふるさと 南丹市』の実現に向けては、まちの魅力や特徴を最大限に発揮した移住・定住対策が必要不可欠と考え、「定住促進」を重点テーマに掲げます。

重点テーマ：定住促進

～住み続けたいまち・住んでみたいまち～

③ 人口フレーム

総合振興計画において、都市のインフラ整備や雇用の場の創出、教育・福祉の充実などによる将来の「定住人口」が、10年後のまちの活気を示す基本的な指標となります。

南丹市では、2015（平成 27）年度に策定した「南丹市地域創生戦略」の基礎資料として、「南丹市人口ビジョン」を作成し、長期ビジョンに基づいた目標人口を掲げています。

本計画においても、「南丹市人口ビジョン」を踏まえ、目標年度である 2027 年度の定住人口の目標を 30,000 人とします。

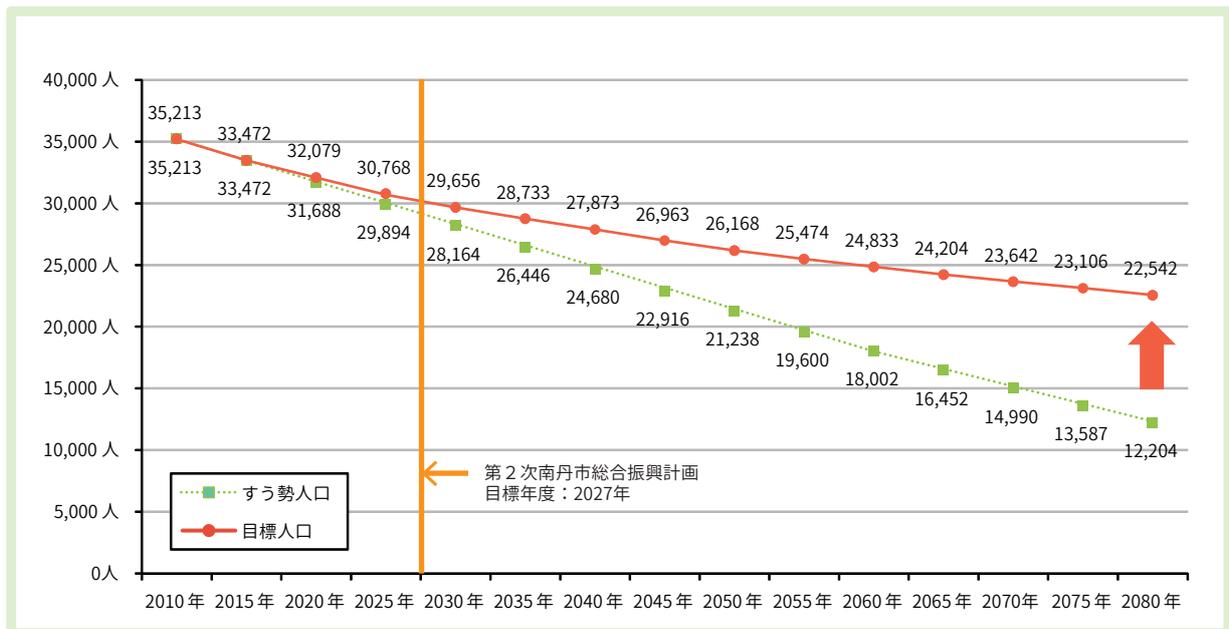
また、第 1 次計画では、定住人口とともに交流人口も目標数を設定しました。

南丹市には、スプリングスひよしや府民の森ひよしなどの日吉ダム周辺施設、日本の原風景が残るかやぶき民家群、るり溪高原、清源寺の十六羅漢像など、多くの観光客を呼び込む観光資源が数多く存在し、まちの活力の維持・充実に重要な役割を果たしています。

そこで、本計画でも引き続き交流人口の目標数を掲げ、2027 年度の目標を 280 万人と設定し、観光入込客数で把握することとします。



南丹市人口ビジョンでのすう勢人口※と目標人口



資料：南丹市人口ビジョン

※すう勢人口：定住施策などの戦略的な人口政策の取り組みを想定しない場合の将来人口。

4 土地利用基本構想

恵まれた交通立地のもとに、各地域の産業、自然、歴史、文化資源やこれまでのまちづくりの蓄積を十分に生かした地域整備、市街地整備を図ります。

そのために自然環境に配慮した適切な土地利用の誘導を図る「ゾーン」、地域活動の基盤となる「拠点」、さらに、まちの骨格となる「交流軸」を位置づけます。

(1) ゾーン形成

① ふれあいの森・国定公園ゾーン

農村景観や芦生研究林などの豊かな自然環境が豊富に存在し、また、日本の原風景ともいえる国の重要伝統的建造物群保全地区に選定されたかやぶき民家群が存在しています。

今後は、これら地域資源を保全し生かしながら、都市農村交流を中心とした地域おこしを推進し、グリーン・ツーリズム※や都市からの移住促進を図るほか、市民が主体となった農林水産物加工販売などを進め、自然とのふれあい豊かな地域整備を進めます。

② やすらぎの田園ゾーン

丹波高原の東部の丘陵地帯にあり、なだらかな山々に囲まれた緑豊かな地域で、明治国際医療大学や同附属病院、交流施設としての多くの人々が訪れる日吉ダム周辺レクリエーション施設があります。また、平野部に広がる田園地帯には、農村環境公園やバイオエコロジーセンターなどの施設があり、今後はこのような地域特性を生かした農・畜産ブランド化の推進などの産業振興、スポーツ・健康づくりイベントの推進、学習セミナー活動や文化芸術活動の場づくり、余暇施設の充実などの地域整備を進めます。

③ にぎわいの市街地ゾーン

この地域は古くから広域交通の要衝として、また、地域の政治・経済・文化の中心地として発展してきました。JR山陰本線複線電化や京都縦貫自動車道の整備により、都市圏との時間的距離がよりいっそう短縮され、企業・事業所の進出や高等教育機関の進出がみられるほか、地域医療の拠点施設として京都中部総合医療センターもあります。

今後は、企業誘致の推進、地元商業の活性化とともにJR駅前開発及び再開発事業の推進、住宅地整備、上下水道整備などの市街地整備を進めます。

※グリーン・ツーリズム：農山村の地域文化をありのままに生かして、来訪者の体験の場などを提供し、交流すること。

④ 癒しの里山ゾーン

この地域は、なだらかな里山に囲まれた緑豊かな田園地域と、大阪府、兵庫県に接し、古くから多くの人々に親しまれている景勝地るり溪高原があり、温泉施設などの整備によって阪神方面からの来訪者が増加しています。

今後は、四季を通じて楽しめる自然と温泉を生かした、観光とレクリエーションを中心とした地域整備を進めます。

(2) 拠点形成

広域交流軸沿線にあって、商業や医療、行政サービス施設が集積する園部の市街地を中心とする地域を都市拠点と位置づけ、南丹市の中心としての市街地整備による多様なサービスの集積を図ります。

また、八木、日吉、美山地域の暮らしの中心となる地域を、都市拠点と連携しながら行政サービスと市民活動を支援する機能の集積を図る地域拠点として位置づけます。

(3) 交流軸形成

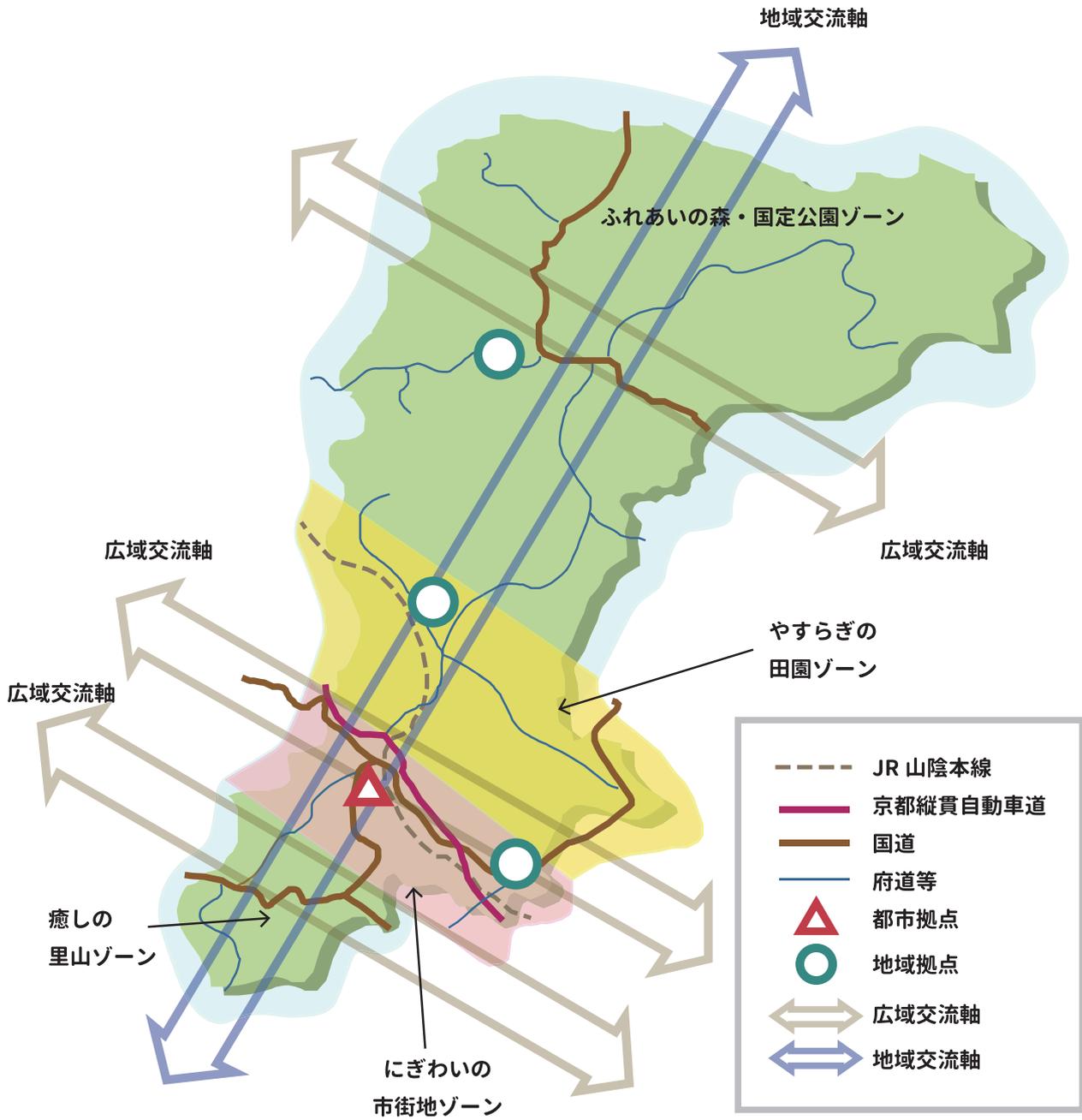
① 広域交流軸

京都縦貫自動車道（国道 478 号）、国道 9 号、162 号、372 号、423 号、477 号の広域幹線と JR 山陰本線を「広域交流軸」と位置づけ、活発な交流と物流を促すための整備を促進します。

② 地域交流軸

地域間を連絡し、主軸幹線と鉄道・高速道路などを連絡する市内の主要な府道、市道及び広域農道を「地域交流軸」と位置づけ、安全で安心できる道づくりを進め、地域住民の交流を促進します。

将来のまちのすがた構想図



⑤ まちづくりの基本方針

(1) つながりのあるまちづくり【人権・コミュニティ・協働】

性別や年齢などにとらわれず、市民一人ひとりの人権を尊重することをまちづくりの基本に、国内外のさまざまな交流活動を推進し、多文化共生のまちづくりを進めます。

まちづくりの基盤となる地域コミュニティの維持・活性化に向けては、地域主体の活動を支援しつつ、南丹市の地域特性に適した地域自治制度の在り方を検討します。

さらに、複雑化・多様化する地域課題に対して、市民や地域、事業者、学校、行政などの多様な主体がさらに連携し、協働によるまちづくりを図ります。

(2) 健やかで幸せに暮らせるまちづくり【保健・子育て・医療・福祉】

誰もが生涯を通じて健やかでいきいきと暮らすことができるよう、市民一人ひとりの健康づくりや食育の推進、生活習慣病予防に取り組むとともに、関係機関との協力のもと、病院や医院、診療所との連携をさらに強化し、地域医療の充実を図ります。

また、安心して住み続けられるよう、地域ぐるみによる福祉のまちづくりを推進するとともに、子育て支援をはじめとする各種福祉サービスの充実を図ります。

各種社会保障については、市民生活のセーフティネットとして、その充実と安定に努めます。

(3) 学び楽しむまちづくり【教育・文化・スポーツ】

幼児・児童生徒一人ひとりに、生涯にわたって学び続けることができる基礎学力の習得を図りながら、「ふるさと南丹市」を愛する心を育み、未来に向かってたくましく生きる力を地域総がかりで育成します。

また、市民一人ひとりが、いきいきと学び続けることができる生涯学習社会の構築をめざし、互いにつながり合い豊かに生きるために必要な学習機会の充実や文化・スポーツ活動の推進を図ります。

(4) 自然と共生したまちづくり【環境】

るり溪や芦生研究林、美山川の清流など、南丹市に残る豊かな自然を次世代に引き継ぐとともに、市民や地域、事業者、行政などがそれぞれの役割分担に応じた環境保全活動や美化活動に取り組み、人と自然が共生し、公害のない、きれいな環境が維持されるまちづくりを進めます。

また、地球にやさしいエネルギー対策や環境学習を進めるとともに、持続可能な循環型社会をめざすため、ごみの減量化・再利用化・再資源化を図る3R※を推進します。

※3R：Reduce（リデュース：ごみを減らす）、Reuse（リユース：繰り返し使う）、Recycle（リサイクル：資源として再利用する）の3つの語の頭文字をとった言葉

(5) 活力とにぎわいのあるまちづくり【産業振興】

南丹市の豊かな自然環境や歴史・文化資源などを活用し、まちの魅力を市内外に積極的に発信するとともに、4町の地域資源をつなげた観光プログラムづくりやエコツーリズム※の推進などにより、新たな魅力づくりに努めます。

また、地域の基幹産業である農林水産業の振興や、地域経済と暮らしを支える商工業の振興を図るとともに、多様な展開による「なんたんブランド」の確立に努めます。

さらに、就労支援や就労環境の充実により、雇用の安定を図ります。

(6) 安全・安心なまちづくり【危機管理】

東日本大震災や2013（平成25）年に発生した台風18号の被害を教訓として、誰もが地震や台風などの自然災害から守られ、安全で安心して生活することができるよう、地域や関係機関などと連携した総合的な防災体制の強化を図ります。

また、防犯や交通安全、消防などの生活安全については、身近に潜む危険に対する意識の啓発や地域ぐるみでの取り組みの促進、関係機関との連携による対策の強化に努めます。

消費生活についても、意識の啓発や相談体制の強化に努めます。

(7) 美しく快適なまちづくり【都市基盤】

南丹市らしい、魅力的で秩序ある土地利用を推進するため、景観に配慮しつつ、公園・緑地の整備や住宅・住環境の充実、市街地の整備・活性化を図ります。

また、河川や道路網の整備、上下水道については、活力のあるまちを支える都市基盤として、適切な整備と維持管理を行います。

さらに、いつでも快適に暮らせる生活環境の向上を図るため、公共交通機関の利便性向上を進めるとともに、ハード・ソフト両面での情報通信基盤の充実にも努めます。

(8) 効率的・効果的な行財政によるまちづくり

社会情勢の変化などにより、行政需要はますます増大することが予想されるため、今後さらに財源の確保による財政基盤の確立を図るとともに、民間活力の導入や広域連携などによる行財政改革を推進し、最少の経費で最大の効果を発揮するべく、将来にわたって持続可能な行財政運営を行います。

また、市民の視点に立ち、迅速で利便性の高い行政サービスが提供できるよう、職員一人ひとりの意識改革や能力の向上、行政組織の活性化に努めるとともに、電子自治体の推進や公共施設のさらなる活用を図ります。

※エコツーリズム：観光や旅行を通じて、自然環境や歴史文化など地域固有の魅力を伝えることにより、自然保護や環境保全への理解を深めようという考え方。また、そのような旅の仕方。

まちの将来像と重点テーマ、定住人口目標、まちづくりの基本方針などの相関図

